

書かない 小論文指導

第3回

【未来に向けた「提案」まで考える】

神崎氏は小論文で設問に対する「意見」「理由(根拠)」を示すだけでなく、「これからどうすべきか」という未来に向けた「提案」まで求めます。今回は提案に必要な「ほんとうにその在り方でよかったのか」と批判的に捉え、問題や課題を克服するための「批判創造思考」を身に付ける授業を紹介しします。

「批判創造思考」は、第1回目の記事において、これまでの知をクリティカルに捉え、統合し、新たな知を創造する思考」と私なりにまとめて示しましたが、2001年にサミュエル・ブルームの弟子筋であるアンダーソンやクラソールらが発表した改訂版タクソノミー(教育目標の分類学)では、認知過程の次元を、1 記憶、2 理解、3 応用、4 分析、5 評価、6 創造と分類しています。私の言う「批判創造思考」は「評価」「創造」にあたります。

創造するためには、これまでつくり上げてきたもの(過去)を振り返ることが欠かせません。これからつくり上げるもの(未来)を想定した評価軸に沿ってこれまでの出来事や作品(過去)を批評し、それが適切だったのかを判断します。つまり、「評価」で批判的思考を發動するということです。そのうえで、その評価に従って企画・制作をし、新たなモノやコトをつくり上げます。これを「創造」と呼び、改訂版タクソノミーの最上位として位置付けられています。

なお、未来のあるべき姿を考えるにあたり、参考になる書籍を3冊紹介しますので、ぜひ目を通してみてください。また、3名とも世界的なカンファレンスであるTEDにも登壇し、動画が配信されていますので、動画視聴もよいですね。

●ハンス・ロスリング

『FACTFULNESS』 中経出版

●ユヴァル・ノア・ハラリ

『21 Lessons』 河出書房新社

●安宅和人

『シン・ニホン A1Xデータ時代における日本の再生と人材育成』NewsPics

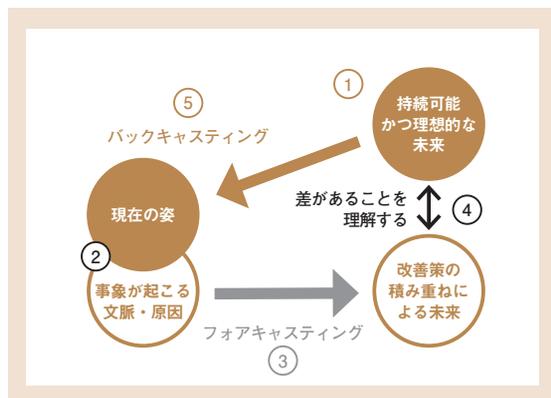
バックキャストイングと フォアキャストイング

「批判創造思考」の教授法を考えるにあたり、バックキャストイング(Backcasting)という発想法を知っておきましょう。この方法は、1990年にウオータール大学のジョン・B・ロビンソンによって示されたのが始まりと言われていました。望ましい未来の姿(目標)となる状態から逆算して、到達するための施策を考えます。その目標は遠大すぎたり達成不可能なものとなりがちですが、それを乗り越える方法を模索します。

なお、逆に現状から改善策を積み上げる考え方をフォアキャストイング(Forecasting)といいます。現在もっている資源をもとにしなが、達成しやすい目標を設定し、実行します。私は、どちらが正しいというものもなく、両者ともに必要だという立場です。大事なものは、その両者の差分に気付くことです。思考の流れを示すと、おおよそ以下のようになると想定できます。

- ① 持続可能かつ理想的な未来を定義する
- ② ある事象、現象が起こる文脈をたどる
- ③ ②の改善策の積み重ねによって、どういつ未来が描けるのかを想定する(フォアキャストイング)
- ④ ③では理想の未来に近づけないことを理解する

- ⑤ ①と③の差分をどう埋めるのかを考える。現在に至る文脈をクリティカルに眺め、その理想に近づくための方法を考える(バックキャストイング)



未来を変える原動力となる 「反転」思考

「批判創造思考」を身に付けるための授業では、新しいことをどう試行するかを考えることが求められます。その一つの道具として、私はカナダ出身の英文学者・文明批評家のマーシャル・マクルーハン(1911-1980)が提唱した「テトラッド」を参考にすることがあります。彼はメディア研究で有名で、「メディアの法則」のなかでテトラッドが紹介されています。

これは、新しい何かを試行するために用いる4つの問いの組を示したものです。



神崎史彦

1978年生まれ。1996年に法政大学に法学部論文特別入試で合格。在学中より塾講師を務め、卒業後は大学受験予備校などで小論文の講義を担当する一方、模擬試験の問題作成者として活動。20冊の学習参考書出版。現在は自らの塾を運営しながら、講演や私立学校での講師を勤め、全国各地の高校教育改革ならびに高大接続事業のコンサルティングを行っている。2020年4月よりスタディサプリー講師に就任。社会人大学院生(慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科)。21世紀型教育機構アクレディテーションメンバー。

- ①強化(Enhance) それは何を強化し、強調するのか?
- ②衰退(Obsolescence) それは何を廃れさせ、何に取って代わるのか?
- ③回復(Retrieve) それはかつて廃れてしまった何を回復するのか?
- ④反転(Reverse) それは極限まで推し進められたとき、何を生み出し、何に転じるのか?

自動車というメディアを例に、テトラッドで考えてみます。人間の移動やプライバシーを強化し①、馬車の関連産業が衰退しています②。一方で、移動の自由や個人的な空間が回復され③、渋滞や交通事故という問題が生れますが、それを転じるために自動運転という技術が生れます④。自動運転であれば、運転支援技術により交通事故を防ぎ、渋滞を緩和するだけでなく、サスティナブルな車作りの技術となります。

● 学習指導例(講座2回目、対象:高3:120分)

「もし理想の未来をつくるなら、あなたはどのような力を身に付けるべきか」

本時のねらい ①発散・収束に慣れる ②小論文の要素である「意見」「理由」「提案」を導く練習をする ③大学進学や研究の意味を考える ④バックキャストの概念を理解する

★: オンラインの場合

学習活動	指導上の工夫・駆動質問・留意事項	教材・教具
アイスブレイク(15分)	ペアの組成・先攻・後攻の決定 個人ワーク「LEGO®をつかって、橋をつくってみよう」 ペアワーク「つくった作品をもとに、「情熱を傾けた瞬間」をペアの相手に語ろう」	LEGO® ★家にあるものをつかってつくるように指示。
ワーク① 日本(および世界)の現状を把握する(20分)	問いの提示 ※事前に課題を出しています。 ①安宅和人氏(慶應義塾大学教授・ヤフーCSO)とユヴァル・ノア・ハラリ氏(歴史学者)の動画を視聴して、内容のまとめ ②自分が志望する大学・学部・学科で学べること(できるだけ精緻化するよう求める) 「日本の現状について、動画で学んだことをまとめよう」 発散①(個人ワーク)「動画の内容をもとに、安宅氏とハラリ氏が日本はどういう状況であると述べていたか」※付箋1枚につき、特徴や意味を一つ示す 収束(グループワーク)「発散した付箋を分野ごとにカテゴリ化してみよう」(経済・法・科学・政治・宗教・教育・芸術・マスメディア)	黄色の付箋(75×75mm) ★ホワイトボードやJamboard(Googleが提供するホワイトボードアプリ。オンライン上で参加者が書き込むことができる)を用いる。以下同様。
ワーク② フォアキャストで日本の未来を推測する(20分)	問いの提示 「日本の現状を改善しつつやっていく未来はどのようなものか考えてみよう」(フォアキャスト) 発散②(個人ワーク)「先ほどカテゴリ化した領域のうち1つを選んで、そこに集まっている付箋を眺めながら、この状況が続くとどういう世界になりそうか」※付箋1枚につき、特徴や意味を一つ示す。カテゴリ毎に分担してもよい。 収束(グループワーク)「今描いた未来を眺めながら、ほんとうにこれまでの在り方でよかったのか、みんなで考えてみよう」(Critical Thinking)	青の付箋(75×75mm)
休憩(10分)		
ワーク③ バックキャストイング(40分)	問いの提示 「自分たちだけでなく、世界の人々がこれからも末永く幸せに生きられる未来をどう描くか」(バックキャストイング、テトラッドの反転) 発散③(個人ワーク)「先ほどのワークで考えたことを振り返りながら、どういう未来をつくれれば自分を含めて多くの人が幸せになりそうか。LEGO®を使って、理想の未来を作品にしてみよう」 発散④(グループワーク)「作品の意味をグループの仲間につたえてみよう」[発表者に「この形・色・組み合わせはどういう意味を込めているの?」などと、作品の意味をより詳しく聞き出して、発表者の内側にあることばを引き出そう]※赤色の付箋1枚につき、意味を一つ示す。発表者が気兼ねなく話せるように場づくりする。発言を付箋に書く人を決めておく。 収束(個人ワーク)「赤色の付箋で書き留めた内容を眺めてみよう。みんなが掲げた理想の未来の要素を実現するために、君たちはこれからどういう力を身に付けていこうか。大学でどういう研究をしたら未来づくりに貢献できそうか」※緑色の付箋1枚につき、力や研究内容を一つ示す。	LEGO® 赤色・緑色の付箋(75×75mm)
リフレクション・チェックアウト(15分)	学びの共有 「授業を受ける前と比べてどのように成長したか、みんなでシェアしよう」 感情の共有 「メンバー同士の気持ちを整えるために、授業を通して自分の状態や気持ちを語り、みんなでシェアしよう」	水色の付箋(75×75mm)
小論文の課題【ホームワーク】	「あなたが理想とする未来を定義し、その根拠とともに、その実現のために大学でどういう研究もしくは学びを得たいか」(800字以内)	『志望理由書のルールブック』

注目すべきは「反転」です。反転によって問題が起こり始めると、解決策を考えて、新たな技術が生れます。④に注目するならばフォアキャストイングで捉えつつ、ここで「ほんとうにその在り方でよかったのか」と

今までの自動車の在り方をクリティカルに捉える機会をもつこととなります。そして、循環型社会や共生といった理想の未来の姿を想定し、その差を埋めるための技術とはどういうものなのか、バックキャストイング

で思考することになります。このように、反転は未来を変える原動力になります。バックキャストとフォアキャスト、反転の思考法を使い、未来に向けた提案まで行うのが今回紹介する授業です。

※神崎氏はLEGO® SERIOUS PLAY®(レゴ®シリアスプレイ®)のトレーニングを修了した認定ファシリテーターです。